実需者に求められるコギク産地の育成

県央農林事務所　笠間地域農業改良普及センター

コギクは笠間地域を代表する品目です。産地全体の栽培面積は約 25ha で、7 ～ 9 月の需要期を中心に出荷しています。生産者はＪＡ常陸笠間地区花き部会に所属しており、このうち 51 戸が共選共販による市場出荷をしています（出荷本数約 310 万本、販売金額 1.3 億円）。

実需者に求められるコギク産地としては「需要期出荷」「安定した出荷量」「良品質」の要素が重要で、それらに対し「露地電照栽培の普及拡大」「新規生産者の確保育成」「白さび病対策」に取り組んできました。

露地電照栽培の普及拡大

近年の温暖化等の影響で開花期が大幅に変動していることから、露地電照栽培（写真１）を導入し、開花期を調整しています。生産者にとっては単価増につながることから、年々導入面積が増え、平成 28 年度は 30 名で 268a となりました。

毎年、検討会を開催し、花芽検鏡の結果をもとに消灯日を決定しています。平成 28 年の 8 月盆は需要期にピッタリ出荷ができました。

写真１　露地電照栽培の様子

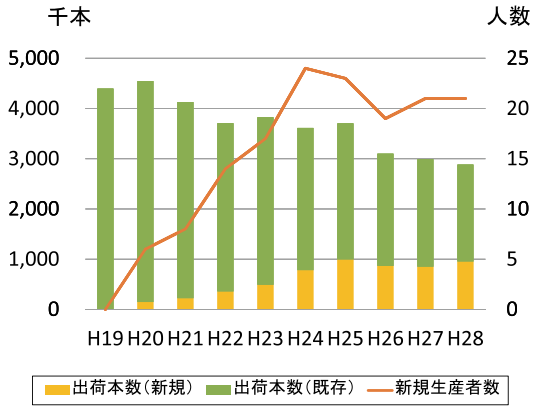

図１　生産者数と出荷本数の推移
（出荷本数は毎年 10 月末時点）

新規生産者の確保・育成

生産者の高齢化による出荷量の減少が見られることから、平成 19 年からコギク新規生産者の募集開始と『花の匠』制度を創設し、H28 年までに共選出荷する新規生産者を 21 名確保しました。新規生産者の出荷本数は共選全体の 33% を占め、既存生産者だけでは減少の一途だった出荷量を支えています（図 1）。

平成 25 年以降は、新たな生産希望者数が減っている一方で、給付金を活用した新規参入による希望者が出てきています。

良品質生産（白さび病対策）

白さび病は良品生産を妨げる主要な原因で、出荷皆無の被害に至ることもあります。

そのため、栽培期間中の防除体系を見直し、安価な硫黄剤等による予防防除を推進したことで被害は年々抑えられるようになりました。

さらに、新たな防除技術として、育苗時に高温処理をする物理的防除法の現地実証試験を行い、育苗中のセル苗を 38℃ × 36 時間処理することで高い防除効果を得られることが分かりました（写真 2）。

写真２　白さび病に対する育苗時高温処理の効果
（左：高温処理後（病斑無）右：無処理（病斑広がる））